

ペットと飼い主の性格に関する統計的分析

2000MM009 長谷川 りつこ

指導教員 松田 眞一

1 はじめに

ペットブームである現代、大都市圏のペット飼育率が増加しており、3 件に 1 件はペットを飼っているとも言われている。しかし、集合住宅でのペット飼育や動物虐待など、動物をめぐるさまざまな問題が起こっている。

そこで、人はペットと暮らすことをどのように思っているのか、そこに飼っている人と飼っていない人の意識の違いはあるのかということを統計的に分析する。また、ペットの種類により飼い主の性格の違いがあるか分析し、犬好き・猫好きなどを性格的にみる。

2 データについて

南山大学【名古屋キャンパス・瀬戸キャンパス】の学生 297 人に対してアンケート調査を行い、260 人を有効なものとして回収できた。有効回答率は 87.5 %であった。

アンケート内容

動物・飼育に関する質問 19 問

世帯構成に関する質問 1 問

住宅に関する質問 2 問

性格に関する質問

「外向型 - 内向型」「現実型 - 直感型」

「情緒型 - 思考型」「規範型 - 柔軟型」

それぞれ 6 問 計 24 問

動物・飼育に関する質問は Web ページ [1] より、性格に関する質問は奥田 [2] より引用した。

性格の分類

性格に関する質問において「はい」「いいえ」「どちらともいえない」のうち、1 つだけ回答を選んでもらった。そして「はい」には 2 点、「どちらともいえない」には 1 点、「いいえ」には 0 点を与え、4 つの項目ごとに 0 ~ 12 点を算出する。さらに 0 ~ 4 点は 1、5 ~ 8 点は 2、9 ~ 12 点は 3 とデータを与え以下のように分類する。

外向型 3 ↔ 1 内向型 現実型 3 ↔ 1 直感型

情緒型 3 ↔ 1 思考型 規範型 3 ↔ 1 柔軟型

3 解析方法

数量化 II 類・クラスター分析を用いて解析を行った。また、アイテムの影響を調べるのに重回帰分析を用いた。

4 解析結果 1 (飼育の有無による違い)

アンケート Q1, Q2, Q15 ~ Q21 の動物・飼育に関する質問と性別において飼育の有無による違いがあるか、外的基準を「飼っている」「今は飼っていないが過去に飼っていた」「飼っていない」として解析を行った。紙面の都合上、数量化 II 類第 1 軸の特徴的な結果を表 1 に示す。

ここでは現在過去の飼育にかかわらず、飼育経験の有無による違いがみられた。

表 1 (第 1 軸の相関比: 0.272)

アイテム		スコア	偏相関係数	範囲
動物が好きか	1	0.160	0.310	2.080
	2	-1.920		
よいと思うこと	1	-0.321	0.200	1.302
	2	-0.105		
	3	-0.079		
	4	-0.079		
	5	0.643		
	6	0.980		
	7	0.148		
気になること	1	-0.455	0.241	1.239
	2	0.755		
	3	0.037		
	4	0.420		
	5	0.709		
	6	-0.484		
	7	0.296		
	8	0.086		
	9	0.074		
飼えなくなった場合	1	0.017	0.110	1.184
	2	0.082		
	3	-0.403		
	4	0.781		
一戸建て集合住宅	1	0.155	0.215	1.059
	2	-0.904		
外的基準		飼っている	0.434	
		過去に飼っていた	0.106	
		飼っていない	-0.780	

Q1 あなたは動物が好きですか

動物を飼っている人・今は飼っていないが過去に飼っていた人は 1, 「好き」で、動物を飼っていない人は 2, 「嫌い」である。

Q15 ペットとして動物を飼うことについて、よいと思うことはどのようなことですか。

動物を飼っている人・今は飼っていないが過去に飼っていた人は 5, 「家族のきずなが強まる」6, 「ペット仲間が増える」と思っており、動物を飼っていない人は 1, 「育てることが楽しい」と思っている。ペットを通じて仲間が増えたり、家族のきずなが強まるなどは動物を飼ってみて体感できることだろう。飼っていない人は飼育経験が無いので、育てる事自体楽しいことだと思っている。

Q16 ペットを飼うことで、気になることは何だと思えますか。

動物を飼っている人・今は飼っていないが過去に飼っていた人は 2, 「傷」5, 「抜け毛」が気になり、動物を飼っ

ていない人は1,「汚れ」6,「しつけ」が気になることだと思っている。傷や抜け毛は、動物を飼ってみたいとわからない問題である。しつけや汚れは、飼っていない人が実際に受けた被害をもとに考えた結果であろう。

Q17 家庭で飼っているペットが、いろいろな事情で飼えなくなった場合、あなたはどのようにするのがよいと思いますか。

動物を飼っている人・今は飼っていないが過去に飼っていた人は4,「その他」、動物を飼っていない人は3,「保健所などに引き取ってもらおう」と思っている。その他の意見として「それでも飼う」「引越す」など、動物を飼う以上最後まで責任を持って飼うべきだという意見があった。飼っていない人は、新たな飼い主のを探す手間も省ける公的な場への引き取りを選んだ。

Q21 住居の形態はどれにあたりますか。

動物を飼っている人・今は飼っていないが過去に飼っていた人は住居が1,「一戸建て」で、動物を飼っていない人は2,「集合住宅」である。

5 解析結果2 (ペットの種類による違い)

ペットの種類による飼い主の性格に違いがあるか、飼育動物が好きで自分から飼おうと言い出した人のデータのみで解析を行った。外的基準を「犬好き」「猫好き」「その他の動物が好き」とする。紙面の都合上、数量化II類の第1軸を表2に示す。数量化II類第2軸、クラスター分析については結果のみ述べる。

表2 (第1軸の相関比:0.279)

アイテム		スコア	偏相関係数	範囲
外向型内向型	1	2.736	0.348	3.031
	2	-0.044		
	3	-0.295		
現実型直感型	1	-0.088	0.379	1.958
	2	0.606		
	3	-1.352		
情緒型思考型	1	-2.372	0.462	3.642
	2	-0.346		
	3	1.270		
規範型柔軟型	1	0.089	0.061	0.270
	2	0.021		
	3	-0.181		
外的基準		犬好きな人	0.277	
		猫好きな人	-0.061	
		その他好きな人	-1.258	

5.1 第1軸 (相関比:0.279)

第1軸は犬好きな人と猫好きな人・その他の動物が好きな人の軸を表す。

犬好きな人は「内向型」「情緒型」で、猫好きな人・その他の動物が好きな人は「外向型」「思考型」と言える。

5.2 第2軸 (相関比:0.089)

第2軸は猫好きな人と犬好きな人・その他の動物が好きな人の軸を表す。

犬好きな人・その他の動物が好きな人は「思考型」「情緒型」にわかれ「規範型」、猫好きな人は「情緒型・思考型」どちらでもない「柔軟型」と言える。

5.3 クラスター分析

数量化II類で得られたサンプルスコア(2次元)をクラスター分析して、デンドログラムを左より順に第3群にわけた。

第1群

内向型の群である。犬好きの人が集まった。

第2群

外向型で思考型の群である。その他の動物が好きな人が集まった。

第3群

外向型で情緒型の群である。犬好きな人と猫好きな人が集まった。ここで集まった犬好きな人は、もともと社会的で、周りの意見に流されて犬を飼っている人だと思われる。

6 まとめ

ペットの飼育に関して、ペットを飼うことでよいと思うこと・気になることは、飼ってみたいとわからないことがある。また、飼っていない人は飼っている人にはわからないペットによる被害がある。こういったところで違いが出た。飼い主の性格は、犬は散歩などの時間的拘束がある。外出する機会が減るので、犬好きな人の大半は内向型になる。猫は犬ほどしつけをしなくてもよく散歩などの時間的拘束がない。よって、猫好きな人は柔軟型である。その他の動物は犬・猫に比べてペット用品も少なく、飼いにくいと思われがちである。飼う場合は慎重に考えるので、その他の動物を好きな人は思考型と言える。

7 おわりに

本研究を通して、ペットとして動物を飼うこと、それを取り巻く人間について改めて考えさせられた。特に集合住宅での飼育は、今や社会問題へと発展しており、自らの深刻化さを知った。飼い主の性格は、犬好きは外向型、猫好きは内向型という先入観を持っていたが、それを打ち砕く結果が出たことにとっても驚いている。その他の動物についても詳しく解析を行いたかったが、データが少なく解析することができなかったのが残念である。

参考文献

- [1] 内閣総理大臣官房広報室, 動物愛護に関する世論調査, <http://www8.cao.go.jp/survey/h12/aigo/index.html>.
- [2] 奥田 幸弘, ボランティア活動に関する統計的分析, 南山大学経営学部情報管理学科卒業論文要旨集, 1997.